

ラダー評価表 ラダーE-2

氏名

評価日 年 月 日

4:良くできる 3:できる 2:ほぼできる

1:到達までには課題がある

レベルIの定義		地域包括システムを活用しケアの受け手及び病院にとっての最適な手段を選択した看護を実践する							
項目	【レベル毎の目標】	【行動目標】	実際例	成果と評価できる行動	自己評価			他者評価	
					/	/	/		
ニーズをとらえる力	ケアの受け手や地域（病院）の関連や意味をふまえてニーズをとらえる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる	患者を取り巻く多様な人々がもつ情報の重要性を理解し、情報収集を行い必要時他部門への共有を図る	4 3 2 1					
			患者と家族(または患者を取り巻く人々)の価値観とすり合わせ、多職種を使いながら多角的な側面からニーズをとらえることができる	4 3 2 1					
		□個別性に応じたニーズの判断に対し後輩指導や多職種連携ができる	多職種、後輩看護師を巻き込みながら複眼的な視点から迅速に患者の状況をとらえ判断し、複雑な状況や多様なニーズをとらえ、必要な介入を判断できる	4 3 2 1					
			患者に対し、疾患の予後と治療による影響や退院後の生活を予測し他部門と効果的な連携が図れる	4 3 2 1					
			地域全体を俯瞰して、ニーズに対して不足している機能に気づき、他施設等に働きかけることで解決を図ることができる	4 3 2 1					
ケアする力	実践しを巻き込みながら包括的な看護を	□高度な看護実践能力を活用し、人材育成へ結びつけることができる	どのような複雑な背景や状況にあっても、最適なケアをスタッフレベルに応じて指導することができる。	4 3 2 1					
			コミュニケーションに長けており、自らがロールモデルとなり各患者に最適な対応を指導できる。	4 3 2 1					
			ケアの開発のための努力を継続して行う。	4 3 2 1					
			患者の複雑なニーズに対応するため、自身の経験や技術を指導し実践する	4 3 2 1					
			患者の尊厳を尊重し、患者のQOLや生活の可能性を広げるケアを考え実践できる。	4 3 2 1					
			患者の疾患の予後と治療による影響が理解できる	4 3 2 1					
			患者の希望や価値観、尊厳を尊重し、自身の経験を活用し患者にとってベストの看護を指導する	4 3 2 1					
協働する力	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、地域連	□関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる	連携にあたっては全体を俯瞰できる	4 3 2 1					
			連携において、多職種を中心的に巻き込みながらまわりを動かすことができる。	4 3 2 1					
			各職種が役割を効果的に発揮できるよう、各職種の役割を明確化できる	4 3 2 1					
			カンファレンスにおいては、中心となって各職種を尊重しながら、問題解決へ導くことができる	4 3 2 1					
		□目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	看護チーム内では、看護師が役割を効果的に発揮できるよう調整を行う	4 3 2 1					
			各職種でチームの目標を共有できる	4 3 2 1					
			各職種で結束して関わることのできるような連携を促進、指導する	4 3 2 1					
			多職種との連携において、病院内だけでなく病院外との複雑な調整ができる	4 3 2 1					
			自施設に不足している機能に気づき、補完するために資源を活用できる。	4 3 2 1					

